

牛の角突き

国指定重要無形民俗文化財



越後長岡

Echigo Nagaoka Yamakoshi

山古志



山古志闘牛会
長岡市山古志支所産業建設課

TEL. 0258-59-3933
TEL. 0258-59-2343

山古志・牛の角突き
BLOG



山古志闘牛会
facebook



小太郎 (山古志観光協会)
facebook



角突きの歴史



南総里見八犬伝

山古志の「牛の角突き」の歴史は古く、一説には千年とも言われています。その由来、起源などについては記録的資料がないため定かではないが、徳川時代の文豪、滝沢馬琴著の「南総里見八犬伝」にその歴史の息吹をみることができ、その内容が掲載されています。山古志の暮らしは人々と牛が深く結びついており、柵田農耕や運送に大きな役割を担う牛の飼養を伝える江戸時代の記録が残されています。

なぜ山古志で牛を飼うようになったのでしょうか。それは、山古志に広がる柵田と大きな関係があります。柵田は山の斜面を切り開いて作ってあるため、道幅が狭く段差があるため、山あいの柵田で荷物を運搬したり、田畑を耕作したり、堆肥の元を作ったりするときに、牛は貴重な働き手だったのです。世界有数の豪雪地帯であるこの地域に最も適していたのは、足腰が強く、寒さや粗食に耐え、闘志に溢れ、人に慣れやすい岩手産の南部牛でした。冬場、長期間雪に閉ざされるため、牛と人は一つ屋根の下に住み、家族のように慣れ親しんでいました。牛との密接な生活の中で、次第に「牛の角突き」は人々の娯楽となりました。根付き、昭和53年、国の重要無形民俗文化財に指定されるまでになったのです。



千年の歴史を

受け継いだ

郷土の誇り

角を突き合わせ

激しく

せめぎ合う

二頭の牛

手に汗握る

勇壮な戦い

国指定重要無形民俗文化財

日本には、新潟県のほかに、岩手県久慈市、島根県隠岐の島町、愛媛県宇和島市、鹿児島県徳之島、沖縄県うるま市などに闘牛場があります。新潟県の闘牛場は山古志・小千谷の2箇所、日本で唯一、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

- 1 越後の「牛の角突き」には「勝負づけをしない」という独特のルールがあります。その理由は、以下の通りです。
- 2 家族のように育てた牛に、血を流すまでの死闘をさせるのはかわいそうだ。
- 3 徹底的に闘わせて勝ち負けをつけると、牛が闘争心を失くして再び闘わなくなる。
- 4 牛の犠牲を少なくし、長く保有する。
- 5 勝負づけをしないことによって賭博をせず、奉納の意味を強める。
- 6 勝敗をつけることにより、仲間同士で感情を害し関係を悪くすることを避ける。

昔は自分たちが楽しむためにやっていたため入場料をとっていませんでした。観光光が進んだ今でも、管理維持費などの必要最小限の料金だけを頂いています。皆様楽しんでもらう事を喜びとしながら、牛を愛し、山古志の伝統と誇りを守り伝えていきたいという思いで「牛の角突き」を開催しております。

よしたー



よしたー



まくりあい



首をあずける



はたき



かけ

両牛が横から攻撃したいため、頭部を軸に風車のように回転する技。激しい動きから、一瞬の機会を狙う。

自分の全体重を首にかけ、相手の攻撃を受ける防御の技。また、身体(体力)に自信のある牛は首で相手の攻撃をはねのけて、逆に攻撃していくこともある。

自分の角で相手の額を強く打つ技。ゴツンという激しい音とともに、額の毛が飛び散る。最近は得意とする牛が少なくなった。

自分の角を相手の角の下に入れ、持ち上げたり、ねじったりしながら攻撃する角突きの基本となる技。また、下曲がり角の牛は上から大相撲の小手投げのようにして角を使うこともある。

角を突き合わせ

せ、激しくせめぎあ

う2頭の牛。かけ、はた

き、ねじり、力と技でぶつか

り合う「牛の角突き」は、手に汗

握る勇壮な闘いだ。勝負がつきそう

になる瞬間、勢子長の右手がさっとなが

る。勝負づけをしないのが、「牛の角突き」独

特のルールなのだ。まだ闘志が残り、血走る目を

むき、角を突きつけ荒れ狂う牛。牛を制止しようと

必死でくらくらいつく勢子たち。勢子はまさに身体を

張って1トンを超える牛の足を取り、鼻を取りに

いく。牛と牛との闘いもさることながら、巨牛と人

間との迫力ある技の掛け合いもまた「牛の角突き」

の醍醐味だ。

山古志の「牛の角突き」は、千年とも言われる伝

統を今に受け継いだ郷土の誇り。牛と共に歩み、牛

に愛情を注いできた山古志の民俗と歴史がここに

垣間見える。

山古志は、錦鯉の養殖や、山の斜面を切り開いて

作った棚田、冬期に3m以上の積雪がある豪雪地

帯としてもその名を知られ、2017年3月には

日本農業遺産に認定されました。四季折々に移り

変わる原風景の中で、自然と共に生きる「日本の

ふるさと・山古志」でのひと時をどうぞお楽しみ

ください。

中越大震災と牛の角突き



2004年10月23日、新潟県中越地方を震源とした最大震度7を記録する大地震が発生しました。山古志もまた、震度6強という強震に見舞われ、全ての道路が寸断され、山や棚田が崩落するなど、壊滅的な被害を受けました。この地震で、倒壊した牛舎の下敷きになり、牛の約半数が一瞬にして命を落としました。全村民に避難指示が出される中、飼いや勢子たちは身を切られる思いで牛を残して村(当時山古志村)を出ました。それから数日後、まだ余震の続く中、残された牛を助け出すため危険をかえりみず村にもどり、3日もかけてすべての牛を無事に避難させたのです。

牛も住民たちも仮設での暮らしを余儀なくされる中、復興への足がかりとして、翌年5月に仮設闘牛場で「牛の角突き」を再開しました。山古志の復興を応援しよう、県内外から3000人ももの観客が観戦に訪れて大盛況となり、「牛の角突き」は地震で被災した人たちの希望の象徴となりました。2008年には山古志闘牛場で4年ぶりの初場所が開かれました。大地震に見舞われて一時は絶望視された「牛の角突き」が、山古志の地に復活したので

す。その陰には、牛を愛し、伝統を守り抜こうとする勢子や住民たちの熱い思いと、全国からの暖かい支援がありました。